

東大物性研究所 液化室だより

◎液体ヘリウムの申込方法が変わります！

これまで液体ヘリウムの申込は伝票で受け付けてきましたが、6月17日（月）の週よりEメールによって供給の申込を行うことにしました。申込方法の詳細は別紙の通りとなりますが、この方法でいけば、

最初の申込の締切日は6月14日PM1：00まで

Subjectは960617となります。

申込の結果は物性研のホームページから、低温液化室の欄で表示する予定にしますのでここで確認して下さい。また、申込があっても液化室からの返信メールは出しませんので、あらかじめご承知おき下さい。

この方法による受付が軌道にのるまで研究室にはご面倒をおかけしますが、ご理解のほどよろしくご協力をお願いします。

なお、わからないことがありましたら液化室の金子（Tel 5902またはkanekoかekika@kodama）までご連絡下さい。

◎都庁による高圧ガスの立入検査無事終了

但し、自圧式液体窒素容器の汲出しに問題ありと指摘を受ける

去る6月4日、高圧ガス取締法による東京都の立入検査があり検査は無事終了しましたが、自圧式の液体窒素容器の充填に関する問題の指摘がありましたので、とりあえずお知らせします。

その内容は、自圧式液体窒素容器に窒素を充填する場合は液取り出し口から行うことになっているので、容器の頂部のキャップから充填することは厳密に言えば規則に抵触する、と言うものです（検査官によると本来、この個所は液面計がつくところであり、容器メーカーがかってにここを改造してキャップ等をつけることは問題なので、これからは容器メーカーにも指摘していくとのことでした）。

しかし、液取り出し口から充填することは多大の時間がかかり、研究上大変なのでどうすればいいのか伺ったところ、当面、次のような方法をとるようにという指導がありました。

①これまでのような方法で窒素を充填する場合はその容器に、容器の常用圧力の1.1倍以上の圧力をかけ、石鹼水等で漏れがあるかどうかを確認すること。

②充填記録をつけること（充填年月日、使用者名、容器番号、充填量）。

液化室ではこの問題についてどのように対処していくか、まだ検討を始めたばかりで具体的なことは決まっていますが、早晚何らかの対応策をとる必要があると思っています。

（なお、開放容器については対象外で問題がない、とのことでした。）

液体ヘリウムの申込方法

Emailで1行目に下記の形式で入力し、ekika@kodama まで送信して下さい。

申込期限は前週の金曜日PM1:00までとします。(その日が休日の時は前日へ)

EmailのSubjectの項目には、申込週の月曜日の年月日を、半角文字で入力して下さい。

例 申込週の月曜日が1996年6月17日の時は 960617 と入力する。

csv形式 データを英数半角のクォーテーションとコンマで区切る。

"研究室名","申込者","月","火","水","木","金","合計","研究室コード番号"␣

*'研究室名','申込者'は全角文字で入力する。

例 石本研究室→石本

小池孝志→小池 のみとする。

*'月','火','水','木','金'の項目は、希望曜日に容器番号を半角文字で入力する。
それ以外は何も入力しない。

例 '' ,'18-100' ,'' ,'' , '18-100'

'' ,'B-65' ,'' , '10-100' ,''

容器が未定の場合は希望量のみを入力する。

*'合計'の項目は、希望量の合計を入力する。

例 '' ,'D-100' ,'' ,'' , 'E-50' ,の時は '150'

'' ,'5-50' , '1-250' ,'' , '100' ,の時は '400'

*'研究室コード番号'はL N₂ 供給用カードと同じ番号を半角文字で入力する。

*行の最後は␣(Return Key)を必ず入力して、カーソルの位置を次の行の最初に置いて下さい。

その他

*同じ曜日に異なる容器で希望する時は、同じ形式で2行目以降に書く。

*csv形式で入力した行以外は何も記入しないで下さい。

たとえば、文末に送信者のアドレスとか電話番号など

*送信後に訂正するときは、Return Keyの前に"訂正"と付け加えて再送信して下さい。

*申込は、数週間前の分まで可能です。その場合は2通以上に分けて、EmailのSubjectの書き方に注意して下さい。

*Subjectに何も書いてないと、いつの申し込みかわかりませんので、忘れないでください。

*申し込みの結果は返信メールの代わりに、物性研のホームページで液化室の項目に載せますのでそれで確認してください。